

平成30年度事業報告



学校法人 城星学園

はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、平成30年度においては、理事長の「平成30年度からの学園運営方針(別掲)」に基づいて、各校種が一つになって、学園の建学の精神のもとに教育活動を推進した。特に平成28年11月には大阪星光学院と連携協力確認書を取り交わし、兄妹校として様々な教育活動において連携を深め、同じ創立者の両校がさらに発展を期する中で、創立者ドン・ボスコの「こどもを愛するだけでは足りない、こどもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表される教育理念は、現代社会においてますます求められている。その教育理念のもとに、本学園は今後も幼小中高の各教育活動が展開される中で、子どもの成長に合わせて、一貫した教育ができる総合学園としての強みを活かして、教育活動に邁進していく。近年、特に小学校から中学校への内部進学者が減少しているが、大阪星光学院との連携を契機に、様々な教育活動における交流を活かしながら、教育改革、広報活動強化、小中連携強化によって、内部進学者の増加をはかっていく。

また、外部に対する情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められている。平成30年度においては学園後援会との連携のもと、全保護者あてにアンケートを実施し、貴重なご意見が多数寄せられた。その結果を学園の教育活動に活かしながら、平成29年度学校評価としてまとめた上で情報公開するとともに、2019年度に向けてさらに充実した評価活動の実施と教育活動のさらなる推進に繋げていきたい。

《平成30年度からの学園運営方針》

1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。(ドン・ボスコ、マリア・マザレロについて学びを深める。)
2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。(教職員を対象に臨場感のある実地訓練を実施する。)
3. 『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。(学園全体の教職員研修を実施する。)
4. 校種間、兄妹校間の連携を強化する。(学園内校種間連携施策、大阪星光学院の連携施策を創意工夫する。)
5. 自然に挨拶が交わせる学園にする。(教職員の「紹介ブック」を作成し、相互認知のツールとする。)

《平成30年度取り組み事例》

- ・大阪星光学院との連携事業の推進。
- ・各校種の教育活動及び広報活動等(各校種の活動報告参照)。
- ・各校種の自己評価及び学校評価(全保護者アンケート)の実施。
- ・中高教育改革の推進。
- ・幼稚園未就園児対象の体験広場や預かり保育等による子育て支援の実施。
- ・防災実地訓練・防犯実地訓練の実施、守衛・警備の強化。
- ・学園広報活動の充実(各校種の活動報告参照)。
- ・はぐくみの園の活動、JAT(城星学園課外教育活動)プログラムの実施、城星キッズクラブの開設と活動。
- ・事業計画の充実に向けた計画書の見直し。
- ・教育相談室を開設し、児童・生徒、保護者、教職員の諸問題への支援を実施。
- ・中高水泳部をサンタマリアスイミングスクール主任コーチが監督として指導。

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

1. 法人の概要

建学の精神 : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

所在地 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

法人成立の年月日 昭和28年3月25日

学校設置認可年月日

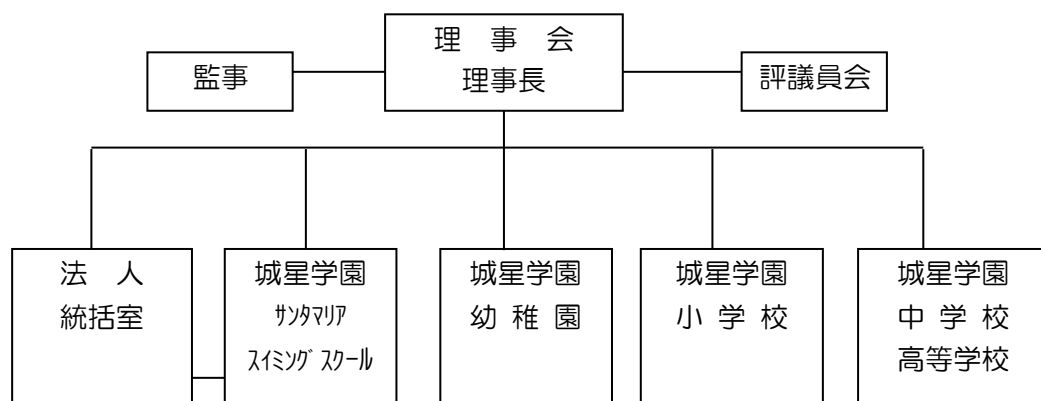
幼稚園 昭和28年3月16日

小学校 昭和28年3月16日

中学校 昭和34年2月27日

高等学校 昭和37年1月14日

学校法人 城星学園 組織図 (平成30年4月1日現在)



1) 設置学校及びクラス数

(平成31年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校(全日制普通科)
3年保育 3クラス	1年 3クラス	1年 2クラス	1年 総合進学コース 2クラス、特別進学コース 1クラス
2年保育 3クラス	2年 3クラス	2年 1クラス	2年 総合進学コース 2クラス、特別進学コース 1クラス
1年保育 3クラス	3年 3クラス	3年 1クラス	3年 総合進学コース 2クラス、特別進学コース 1クラス
計 9クラス	4年 3クラス	計 4クラス	計 9クラス
	5年 3クラス		
	6年 3クラス		
	計 18クラス		

(平成30年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	城星学園中学校	城星学園高等学校(全日制普通科)
3年保育 3クラス	1年 3クラス	1年 1クラス	1年 総合進学コース 2クラス、特別進学コース 1クラス
2年保育 3クラス	2年 3クラス	2年 1クラス	2年 総合進学コース 2クラス、特別進学コース 1クラス
1年保育 3クラス	3年 3クラス	3年 1クラス	3年 総合進学コース 2クラス、特別進学コース 1クラス
計 9クラス	4年 3クラス	計 3クラス	計 9クラス
	5年 3クラス		
	6年 3クラス		
	計 18クラス		

2) 定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		中学校 (定員 180)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	現員	
平成 31	9	279	18	600	4	77	9	189	1,145	△13
平成 30	9	278	18	590	3	63	9	227	1,158	

3) 役員等・教職員

役員等:

年 度	理事	監事	評議員
平成 31	7人	2人	16人
平成 30	8人	3人	18人

教職員：

(5月1日現在) (人)

年 度	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			法人統括室			S S			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他	
平成 31	17	1	8	26	9	4	3	4	0	21	6	14	12	2	3	3	3	21	157
	計 26			計 39			計 7			計 41			計 17			計 27			
平成 30	14	5	8	27	6	4	3	3	1	18	8	12	12	2	3	3	1	21	151
	計 27			計 37			計 7			計 38			計 17			計 25			

4) 役員会の開催

①理事会・評議員会

理 事 会： 平成30年 5月
 平成30年 8月(休会)
 平成30年11月
 平成31年 3月

評議員会： 平成30年 5月
 平成31年 3月

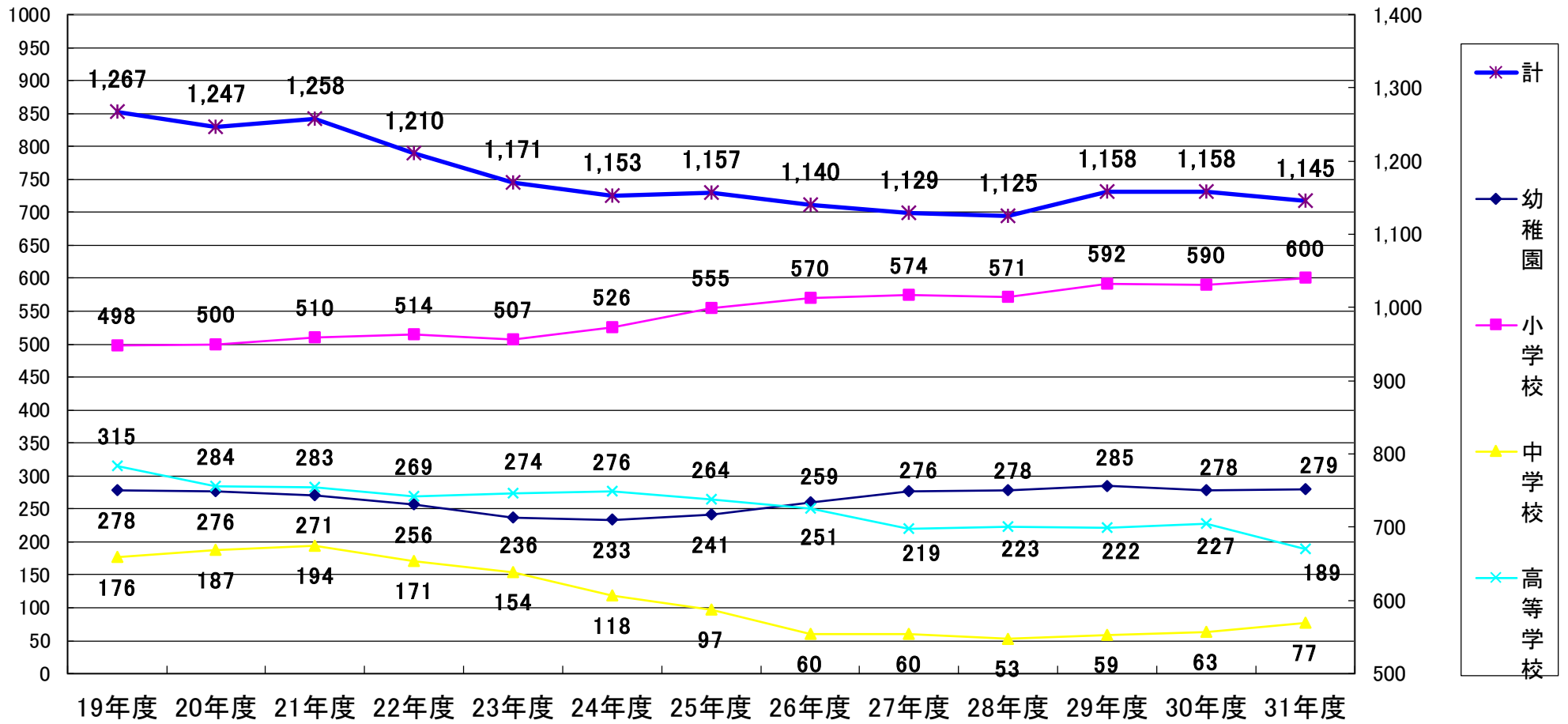
②監 査： 平成30年 5月

2. 募集計画及び教育計画等

()は内部進学者数。 ※別途入園者含む。

年度	区 分	幼稚園			小学校	中学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育			
2020	新入生募集人員	90	若干名	若干名	約100	50	80
平成 3 1	新入生募集人員	84	若干名	—	100	50	80
	志願者数	188	15		200	52	83
	受験者数	180	15		192	49	83
	合格者数	107	6		128	47	83
	入学者数	93	5		103(30)	30(6)	56(13)
平成 3 0	新入生募集人員	80	20	—	100	40	75
	志願者数	183	12		212	29	102
	合格者数	106	3		130	25	102
	入学者数	91	3		99(32)	23(7)	72(16)

生徒数推移



学校法人城星学園 中期行動計画-2018年度のふりかえり

建学の精神:

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にす『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

教育理念:

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

【中期方針・2018年度部門別行動計画及びその評価】

法人

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロについて学びを深める。	(A)福音を感じさせる施設・設備の整備を行う。	司牧委員会での検討をもとに具体的な整備を行う。	カトリック学校を維持していくための仕組み化	講堂エントランスに聖母子のステンドグラス設置、また、マリアマザレロの額絵を玄関に設置
		(B)カトリック精神の理解を深める。	大阪星光学院の職員と合同でサレジオ神学校での1泊2日研修を企画実施する。	ドンボスコについての理解の深化	7月27日・28日に実施
		(C)地域への貢献を深める	城星キッズクラブの会員を増やすとともに、活動内容をさらに充実させる。	地域の子どもたちの健全育成と学園の認知度向上	次年度に向けて城星キッズクラブの活動予定を検討中

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。	教職員を対象に臨場感のある実地訓練を実施する。	(A)防災・防犯マニュアルに基づく、実地訓練を行う	年度予定に、テーマ別の訓練を体系的に組み込んでいく。	有事に際し迅速に行動できる体制の構築	大阪府北部地震発生の際、これまでに積み重ねを活かすことができた。防災及び防犯の実地訓練を実施
		(B)地域の防災活動に目を向ける	地域で実施されている防災訓練に参加する。	地域防災との連携強化	地域防災について、情報収集と現状の把握を次年度において実施
		(C)防災備蓄品を機能的に整備する	たな卸しを行い、効率的に利用できるように備品配置を見直す。ホームページにアップし、内容を周知する。	教職員、学園関係者への周知	ホームページで、専用ページをアップして周知、防災テントの導入
3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。	学園全体の教職員研修を実施する。	(A)在籍教職員の資質を向上させる	コンサルタント吉田氏による各校種別研修会を提案し、実施に導く。	職務に対する意識向上	実施に至っておらず、次年度において(B)と合わせて体系的に実施
		(B)新規入職者の資質を向上させる	新規入職者対象のマナー・接遇研修会を実施する。	一般社会人としての礼儀やマナーの習得	同上
		(C)教育相談室を設置し、教職員の抱える問題に対応する	教育相談室主導で、教職員の問題解決能力を高めるための研修等を企画する。	教職員の問題解決能力向上	教育相談室の地道な支援を実施

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
4.校種間、兄妹校間の連携を強化する。	学園内校種間連携施策、大阪星光学院との連携施策を創意工夫する。	(A)大阪星光学院生徒の学園施設設備利用の促進および教職員の交流を深める	SSスタッフによる水泳指導の援助や救命救急法の合同講習会の開催を検討する。	施設・設備の相互利用、人的資源の相互活用	SSスタッフが、大阪星光学院中学生の水泳指導を実施
		(B)事務部門に教育支援企画グループを設ける	法人統括室、入試広報室等の事務部門スタッフによる教育支援に関するユニットを結成する。	就学支援、JAT企画運営、入試広報支援等の校種間連携強化	各校種の行事等での後方支援は充実してきているが、日常業務の仕事の持ち合いについては、さらに深めていく必要がある。
		(C)SSスタッフによる教育活動の支援を充実させる	幼小中高の水泳授業やクラブ活動に対し、SSスタッフから支援を行う。	法人全体の教育資源の有効活用	主任コーチが中高水泳部監督に就任し、活動を支援
5.自然に挨拶が交わせる学園にする。	教職員の「紹介ブック」を作成し、相互認知のツールとする。	全学的施策を企画する	ア)レクリエーションの要素を含む行事を実施する。(年末防災炊き出し訓練等)	教職員の一体感醸成	台風等の天候により、実践活動が実施できていない、次年度に企画
			イ)スクールコンビニ等アメニティスペースの充実をはかる。	同上	マルゲリータカーテン・マルゲリータルーム共によく活用されており、学園全体の施設設備の機能性向上や付加価値の創造をトータルで検討する必要がある。
			ウ)城星キッズクラブの合同企画行事を実施する	同上	行事の実施回数が、少なかった。

幼稚園

中期方針	2018 年度方針	中期行動計画	2018 年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
1.ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロについて学びを深める。	(A)キリストの教えと、創立者ドン・ボスコとマリア・マザレロの生き方を学ぶ	キリスト教の精神に基づく教育活動を実践し、拡充する。	カトリック・ミッションスクールの教員としての意識と行動の変化	あらゆる教育の場、及び研修の機会を設け、意識改革につなげた。
		(B)アシステンツァの理解を深め、実践する	子どもたち自身が愛されていると実感できるよう、あらゆる教育活動を通して、愛情深く見守る。	保護者の学園教育方針の理解と信頼関係の構築	子どもを中心にした幼稚園と家庭の協力体制をさらに強固にしていく必要がある。
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。	教職員を対象に臨場感のある実地訓練を実施する。	(A)安全教育を実践する	防災・減災の知識を深める為の有効な訓練や研修（救命救急等）を実施し、交通安全指導を実施する。	子どもたちの意識と行動の変化	従前の計画を見直し、様々な状況や視点での安全教育を実施した。
		(B)安全・安心の為の教育環境整備を行う	危険箇所の点検と改修等、教育環境を定期的に点検する。	教育の危機管理意識の向上と変化	老朽化に伴う改修箇所が増えていく為、さらに、安全環境整備に尽力する必要がある。

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。	学園全体の教職員研修を実施する。	(A)教職員の資質向上を目指した研修を実施する	ア)教育者としての意識向上とスキルアップを図る。	教員の日々の実践と習得、組織運営の活性化	教員の資質向上を図る為の研修の機会をさらに増やす必要がある。
			イ)教員相互の円滑な人間関係作りと連帯感に基づく協働意識を醸成する。		組織の一員としての自覚を促し、幼稚園経営への参画意識を醸成する必要がある。
		(B)園児に関する情報の共有を図る	日常的且つタイムリーな情報交換を行う。	全園児の情報についての全教職員の認識向上と組織的な対応	日々の連絡会などを使い、時機を得た情報交換、及び、共通理解に努めた。
4.校種間、兄妹校間の連携を強化する。	学園内校種間連携施策、大阪星光学院との連携施策を創意工夫する。	(A)他校種の児童・生徒との交流の機会を広く設ける	ア)中高生の保育体験実習の場を提供する。	園児と生徒間にとどまらず、教員同士の連帯感と協働意識の向上	保育に興味・関心のある生徒を毎年受け入れ、交流を図った結果、採用などに一定の成果が見られた。
			イ)小学校児童との交流の場を設ける。	園児と生徒間にとどまらず、教員同士の連帯感と協働意識の向上	今年度、3学期に小学校1年生と年中組との交流の場を設け、小学校への理解と段差解消の一助となった。

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
5.自然に挨拶が交わせる学園にする。	教職員の「紹介ブック」を作成し、相互認知のツールとする	(A)教職員間で挨拶を励行する	全教職員間で気持ちのこもった挨拶を励行する。	職場の円滑な人間関係の構築とモラルの向上	校種、職種を問わず、挨拶の習慣が定着してきた。
		(B)園児に対し、挨拶の大切さ等の指導を継続し、励行を促進する	常に親しみを持って交わり、保育者自身が範を示す。	良き社会人としての基本的な生活習慣の定着	教職員が範を示すことで、園児のみならず、保護者間における円滑なコミュニケーションにつながっている。
		(C)より良い教育共同体作りに努める	「母の集い」や各集会等を通して意志の疎通を図るとともに連帯意識を高める。	相互の強固な信頼関係の構築	幼稚園教育活動の良き理解者である保護者の信頼度をさらに強固にしていく必要がある。
6.教育計画		ドン・ボスコ及びマリア・マザレロの教育理念である予防教育法の一層の充実を図る	ドン・ボスコ及びマリア・マザレロの教育理念の研究を深める。	研究成果の日常教育中での活用、教育力向上	行事の精撰などに工夫し、研修の機会を増やす必要がある。
7.募集計画		園の方針や活動内容の積極的な発信と「体験ひろば」の内容の充実と検証を通して、保護者への啓発を図る	ガイドブックやパンフレットを更新し、HPを充実する等、様々なPR媒体を活用して募集につなげる。	現状の新入園児の確保	広報ツール、紹介の場を利用し、園の広報活動を上げた結果、募集の成果が上がっている。

小学校

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
1.ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロについて学びを深める。	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する	宗教研修を活性化する(宗教研修、ドン・ボスコ研修、1泊研修を実施する)。さらに聖書に親しむ。	教員自身の意識と行動の変化	ドンボスコの祝日に向けて、3日間の徳の花を実施。自発的な行動ができるように教員が具体的に話をした。
		(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する	宗教行事を充実させる。 ドンボスコ・マリアマザレロ・ドメニコサビオ・ラウラビクニーヤの生き方に倣う。	子どもたちの意識と行動の変化	約20分間の低学年の発表(ラウラ・ビクニーヤ)をもとに各クラスで生活の中で生かせるよう話し合う時間をもつことができた。
		(C)保護者の理解度を向上させる	保護者対象勉強会(シスター、校長)を実施する。	保護者各位の意識と行動の変化	ドン・ボスコ勉強会を7回実施した。

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。	教職員を対象に臨場感のある実地訓練を実施する。	(A)各学年にふさわしい安全教育を実施する	学年別各種教室を実施する。 登下校指導を強化する。	子どもたちと教員自身の意識と行動の変化 けが0デーの意識化 (毎週金曜日) 防火・安全点検日の着目点の確認	特に下校時，児童の安全確保のため，下校指導の教員を増員した。 今後も継続指導する。
		(B)危機管理研修を実施する	心肺蘇生法研修を実施する。 炊き出し訓練を実施する。		休憩時間や急な時間帯における避難訓練の実施を考える。
		(C)避難訓練を実施する	全校避難訓練を年3回実施する。		実施できず。来年度早期に計画し実行する。 1月は阪神淡路大震災を心に留めておくための行事を企画していきたい。

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。	学園全体の教職員研修を実施する。	(A)教職員研修を実施する	ア)「リスクマネージメント」に関する研修を実施する。	危機管理, 保護者対応に関する研鑽	年度末会議の際に, 教育相談, 保護者初期対応について講話をいただく。
			イ)新任研修会を実施する。	建学の精神と本校の教育についての理解	カトリックミッションである学校の意義, 教材の研究の仕方や教授方法, 学習時における児童理解等細やかな指導体制を整える。
		(B)児童に関する情報交換を実施する	学年会, 学年部会, 職員会議等において日常的に情報交換を行う。	全児童の情報について の全教員の共有・認識	チームとしての学年団, 学年部, さらに全教員での見守り活動を通して, 初期指導の重要性を鑑み, 対応できる体制を整えていく。また, 時系列での記録を残していくことや保護者への密な連絡を心掛ける。

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
4.校種間、兄妹校間の連携を強化する。	学園内校種間連携施策、大阪星光学院との連携施策を創意工夫する。	(A)全校種合同研修会を実施する	合同研修会を実施する。 チャレンジゼミを継続実施する。	全校種の教員の関係性構築	児童募集とともにゼミに参加する児童の意欲を高める工夫を考える。
		(B)幼稚園と小児童の交流会を実施する	交流会を実施する。 幼小の教員情報交換会を実施する。	交流会の実施と幼小教員の連携意識向上	年間行事として固定させて考える。本年度は2/18(月)に実施した。来年度は2/19(月)に実施を予定している。
		(C)小と中高の教員による授業研究を実施し交流を図る	授業研究会の案内及び相互参加と意見交換会を実施する。	授業見学会の実施と小中高教員の連携意識向上	中高の授業参観及び幼稚園保育参観を考え、小学校教育を見つめ直し、教育の在り方を深めていく場としていきたい。
5.自然に挨拶が交わせる学園にする。	教職員の「紹介ブック」を作成し、相互認知のツールとする	(A)教職員間で挨拶を励行する	教職員間で挨拶を継続して励行する。	本校職員としての意識をお互いに注意喚起	本学園教員としての、礼儀、挨拶、マナー、美しい日本語の言葉遣いができるように努めていく。
		(B)児童に対し挨拶・会釈の指導を行い、励行を促す	児童に対し挨拶・会釈の指導を行い、励行を促す。	良き社会人育成の「鏡」となること	継続指導が必要である。具体的に児童がしやすいことを絞って、年間を通して指導する。
		(C)保護者に対し啓発を行う	母親教室(校長、教頭、講師招聘)で啓発を行う。	良き社会人育成の「鏡」となること	子どもを取り巻く学校内外での諸問題について対処の方法などを詳しくお話する機会も持ちたい。

中期方針		中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
6.教育計画		アシステンツァを励行する	「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る	教育成果の向上	休憩時間、校舎内に残留する児童に対するアシステンツァを見直す。
7.募集計画		学校の魅力を発信する	媒体の更なる活用を図る	新入生 105 名確保	3月の体験学習においては、英語によるプログラミングを実施した。

中学校・高等学校

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
1.ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。	ドン・ボスコ、マリア・マザレロについて学びを深める。	(A)カトリックの精神、ドン・ボスコの教育、特に「アシステツァ」の理解を深める	養成会の参加者を巻き込み、先生方が自らこの側面について考える場をつくる。	サレジオの学校の教員としての意識向上	一人ひとりの教員がもっとドン・ボスコの教育思想を自らの日ごろの教育に反映して実践していかなければならない。
		(B)祈りを励行する	生徒が落ち着いた心で祈ることができる環境づくりをする。	「教育は心の問題である」という創立者の言葉に対する教員の意識向上	生徒の朝夕のマリア像前で祈りを慎ましい所作として励行させる。
		(C)学園の教育精神についての保護者の理解度を向上させる	学期に1回、中高保護者の希望者を対象に、「聖書+α」等の勉強会を実施する。	教育活動への理解者増	勉強会の実践が実現できなかった。

」

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。	教職員を対象に臨場感のある実地訓練を実施する。	(A)教員の危機管理意識を向上させ、安心、安全な教育環境をつくる	机上、ロッカー上の整理整頓を行う。特に、個人情報に関わる書類の扱いに細心の注意を払う。	書類紛失、個人情報流出等の不手際防止	安心安全な環境づくりのためにもつと日頃の意識向上が求められる。
		(B)安全教育の向上	SNS使用、防犯、薬物乱用防止等の講座を実施し、防災への実践的対応を模索する。	教員、生徒の危機管理意識の向上	生徒指導部より全校集会時に生徒に説諭しているが、生徒各自の意識向上を図らなければならない。
		(C)保護者との情報共有	多角的な判断を元に生徒を見守る。	生徒の安全確保、問題事象の早期対応	保護者との信頼関係を高め、情報を共有することに努める。

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。	学園全体の教職員研修を実施する。	(A)教員研修の実施	2020年に向けた研修はじめ、授業力、担任力向上のために、必要に応じて研修を行う。	教育の『質』向上	研修の機会を生かし、自らを高め自らが個人的に研修することが望ましい。
		(B)組織として動く	各部署、学年、教科の部長、主任と管理職の連携を強化する。	組織運営の徹底	各部署のチームワークとハーモニーの中で、各自が成長することを期待する。
		(C)生活指導の徹底	礼儀、マナー、身だしなみ等の指導の統一を図る。	『良き社会人』としての成長促進	教師である前に、あるべき人間として自らを省みる姿勢が求められる。

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
4.校種間、兄妹校間の連携を強化する。	学園内校種間連携施策、大阪星光学院との連携施策を創意工夫する。	(A)校種間のつながりを強化する	ア)「はぐくみの園」を中心に、校種間の交流を模索する。	「学園」としての意識の向上	「学園は一つ」という意識をもっと共有しなければならない。
			イ)「はぐくみの園」主催のイベントを実施する。	内部進学者数の増員	中高に対する評価が低い。中高がお預かりする生徒の総合力を向上させていることをもっと評価してよい。
		(B)大阪星光学院との連携をもつ	教科、部活動等、可能なところから大阪星光学院の教員との接触、交流の場を増やす。	大阪星光学院との連携強化	一層の誠意と熱意をもって大阪星光学院との連携をはかる。

中期方針	2018年度方針	中期行動計画	2018年度行動目標	ねらい(評価のポイント)	年度評価(コメント)
5.自然に挨拶が交わせる学園にする。	教職員の「紹介ブック」を作成し、相互認知のツールとする	(A)他校種、法人の教職員と共にあることを意識する	他校種、法人の教職員との自然な挨拶、「紹介ブック」を用いながら顔と名前を知る。	ファミリーとしての学園への帰属意識向上	交流の妨げになるものは何もない。
		(B)『良き社会人』としての模範となる	園児、児童、生徒に対し、教員から挨拶を励行する。	挨拶の大切さの習得	教員の挨拶も生徒の挨拶もともに十分とはいえない。隔てなく言葉を交わすふれあいの心を育てていきたい。
		(C)学園のメンバーとしてふさわしい存在となる	来校者に対し、教員、生徒共に挨拶を励行する。	学園全体のイメージアップ	チームワークの意識をもつと向上させなければならない。

6.教育計画		ドン・ボスコの教育理念の実践の裏りとして、「主体的に考え、行動し、学ぶ生徒」の育成を目指す	特に学校生活に不安を示し始めた生徒、保護者には、今以上に早期対応する。	ドン・ボスコの教育法による教育力の向上	マリアン・メソッドによる学びの森計画の立案まで前進した。
7.募集計画		大阪星光学院との連携についてアピールを継続する／募集に繋がる説明会・イベントを企画する	生徒募集に繋げるべく教育力を強化する。自校の特色などアピールを強化する。広報活動を活性化する。	受験生への直接的な接触、出願促進、生徒獲得	中入試は高学力層の入学者を含め30名を確保した。高入試は減少、内部イベントの訴求力向上が急務である。

3. 施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。

工事・設備等名称		整備目的	執行月	当初予定金額(円)	変更後金額(円)
①	体育館外壁北東面改修工事	体育館北側・東側の壁が劣化に伴う改修。	8月済	24,840,000	33,015,600
②	本館北側ドンボスコ像下地補強工事	像の止め具が経年劣化に伴う補修。	8月済	1,155,600	1,155,600
③	中学棟空調機更新工事	耐用年数経過しており、故障回避とEHPからGHPの取替え。	8月済	14,600,000	15,120,000
④	本館照明器具のLED化	本館照明をLED化。	8月済	13,608,000	13,500,000
⑤	小学校各教室TV入替工事	現在ブラウン管のTVを液晶に取替え	3月済	2,700,000	2,700,000
⑥	本館・高校棟防火設備改修工事	防火扉・防火シャッター等既存不適確を改善。	8月済	14,040,200	14,040,000
⑦	外周東面外壁補修工事	外周東面外壁に水が廻り塗装面が剥離しており、改修。	8月済	1,414,800	3,034,800
⑧	幼稚園防球ネットフェンス新設工事	危険回避の為ネットを設置。	3月済	2,484,000	2,430,000
⑨	幼稚園バスの買い替え	中型バスとマイクロバスの2台を老朽化に伴い買い替え。	8月済	24,873,960	24,847,720
⑩	ドンボスコ広場リニューアル工事	ベンチの取替え。	8月済	0	1,490,400
⑪	小学校職員室改修工事	床の老朽化・職員増加に伴い職員室を整備・改修。	8月済	0	8,806,104
計				99,716,560	120,140,224

財務状況（報告）

次のとおりであるが、今後、大阪星光学院との連携協力、学園再生戦略等により中高生の生徒数の定員確保をはかっていくなかで、収支の改善・安定を求めている。

